

あさひざ  
「旭座人形芝居」(県指定無形民俗文化財)

- 1 日 時 令和元年11月3日(文化の日) 13時30分開演
- 2 場 所 旭座人形芝居会館 八女市黒木町笠原5005-2
- 3 外 題 ことぶきしきさんばそう  
「寿式三番叟」(旭座人形芝居保存会)  
けいせいあわなるとじゅんれいうた  
「傾城阿波鳴門」巡礼歌の段(黒木小学校児童)  
しんれいやぐちのわたし とんべえすみか だん  
「神霊矢口渡」頓兵衛住家の段(旭座人形芝居保存会)
- 4 観 覧 無 料
- 5 アクセス 九州自動車道 八女ICより約23km、車で約1時間  
※駐車場あり
- 6 連絡先 八女市役所 文化振興課文化振興係  
☎ 0943-24-8163 (係直通)
- 7 概 要 「旭座人形芝居」は、明治5年(1872)頃、黒木町笠原<sup>わにばち</sup>八集落に浄瑠璃の名人が現れ、祝いの席で瓢箪や徳利を人形に見立て浄瑠璃にあわせて操ったのが始まりとされます。  
昭和30年、福岡県無形文化財の指定に際して保存会を結成し、平成11年に「旭座人形芝居会館」が落成し、5戸の座元と一般会員で継承しています。また、八女市立黒木小学校でも「人形浄瑠璃クラブ」で伝統を継承し、本公演や笠原まつりで公演を行っています。





福岡県指定無形民俗文化財

あさひ さ にんぎょう しぼ い

# 旭座人形芝居本公演

2019

11/3

祝

13:30  
開演

入場無料  
自由席

## 旭座人形芝居保存会について

旭座の起源は、1872（明治5）年ごろ、かきほら笠原地区のわにばち鱈八集落に浄瑠璃の名人が現れ、祝いの座でひょうたんや徳利を人形に見立てて操ったことに由来します。

以後、九州内の三座からかしろ首を譲り受けて芸題を増やし、農閑期には八女茶のPRを兼ねて興業にまわりました。1907（明治40）年に旭日に大鷹をあしらった引幕の寄贈を受け、地名に由来した「鱈八座」から「旭座」と呼ばれるようになりました。1955（昭和30）年に福岡県無形民俗文化財に指定されたことを機に保存会を結成し、継承活動に取り組んでいます。

後援 福岡県教育委員会・八女市教育委員会

会場案内

旭座人形芝居会館

〒834-1222

福岡県八女市黒木町笠原5005-2

問合せ先

八女市 文化振興課 文化係

Tel 0943-23-1982（直通）





おたのしみ 抽選会  
**「寿式三番叟」**  
 旭座人形芝居保存会

能の「翁」を人形浄瑠璃に取り入れ、景事物として上演する儀式の舞が「寿式三番叟」です。旭座では、お米やお茶などの収穫に対する五穀豊穡と、息災延命を願い、毎年1月20日の「初光り」と、7月15日の「翁渡し」による「座渡し神事」が継承されています。右手に神鈴、左手に扇子を持ち、杵時きをイメージした躍動感あふれる動きで四方を清めます。黄金の稲穂が垂れるよう飾から次々と杵を蒔きながら、くまなく舞台を駆け回り、皆様のご健勝とご多幸を記念します。

おたのしみ 抽選会  
**「傾城阿波鳴門」巡礼歌の段**  
 八女市立黒木小学校人形浄瑠璃クラブ

阿波の国・徳島藩で、名刀・国次が何者かに奪われる事件が起きる。藩士・十郎兵衛は、この刀を取り戻すため、盗賊銀十郎として、女房のお弓とともに浪速に住んでいた。その上、夫の十郎兵衛は、今日中に五十両の金子を用立てなければならない事情にあった。

ちょうど、金策で夫が留守のところへ、巡礼姿のかわいらしい女の子がご報謝に訪れる。お弓が身の上を聞くと、国は阿波の徳島、父の名は十郎兵衛、母はお弓と答えた。それは紛れもないわが娘、お鶴だったのだ。

お弓は娘に災いが及ぶことをおそれ、母と名乗りたい気持ちをぐっとこらえるが、お鶴は「小さい時に別れて親の顔もはっきりと覚えがなく、よその子たちのように、母さんに髪を結ってもらいたい」と泣き出してしまふ。お弓も涙をこぼしながら、お鶴の身を案じ、徳島へ帰るように諭す。

そんなお弓に、「あなたが母さんのように思えてきました。何でもしますからここに置いてください」とお鶴は懇願するが、置いてやることはできない。お弓が帰りの旅費を渡そうとすると、お鶴は小判をもっているのだから心配ないと告げる。わが娘のいじらしさに打たれ、自分の髪で髪を結い直し、泣く泣くお鶴を送りだしたお弓。しかし、このままでは二度と会えないと、連れ戻す決心をしてお鶴の後を追いかけていくのだった。

おたのしみ 抽選会  
**「神霊矢口渡」頓兵衛住家の段**  
 旭座人形芝居保存会

『神霊矢口渡』明和7年(1770)、江戸外記座にて初演。福内鬼外(平賀源内)の代表作。五段形式で、四段目の「頓兵衛住家の段」が有名。

時は南北朝時代。南朝方の新田義興は、鎌倉にいる北朝方の足利氏を攻める途中、多摩川の矢口渡で乗っていた舟に穴を開けられ、両岸から攻められて討ち死にした。「頓兵衛住家の段」矢口の渡守頓兵衛は、義興の乗る舟を沈めた褒美として大金をもらい、博打三昧のぜいたくな暮らしをしていた。

義興の弟義峰は、恋人のうてなを連れて故郷へ帰る途中で矢口の渡しにさしかかった。日が暮れて渡し舟が出ないので、兄の敵の家とは知らずに一夜の宿を求める。頓兵衛の娘お舟は、父が不在のため断っていたが、義峰に一目惚れして二人を泊めることになった。頓兵衛の子分の六蔵は、義峰が新田の落人だと気づき、自分が討ち取って褒美をもらおうと考える。気づいたお舟は「お前はいずれ私と夫婦になる身、まず父と相談するように」と言いくるめて六蔵を追い出し、その際に義峰たちを逃がしたのだった。

(公演ここから)知らせを聞いて夜更けに戻った頓兵衛は、暗闇の中で座敷に忍び寄り、段平刀を突き刺した。引きずりだして夜着をまくと、そこに居たのはなんと娘のお舟。欲深く、人を殺してまで大金を得ようとする父を、息も絶え絶えに諫めるお舟。「敵の娘ゆえ、この世で一緒になることはできないが、親とは心が違うという証があるなら来世で夫婦になろう」という義峰の言葉を信じ、どうか義峰を助けて欲しいと言うお舟に、頓兵衛は地団太踏んで悔しがり、娘を突飛ばすと、人を集めて追っ手をかけた。義峰を助けたい一心のお舟は、櫓の太鼓に目をつける。この太鼓が鳴った時は、生け捕ったので村の包囲を解いても良いという合図なのだ。よろめく足を踏みしめて櫓に上り、ようよう振り上げた桴を六蔵がひったくる。お舟が脇差で一突きすると、六蔵は川へ真逆さま。桴の代わりに、落ちていた脇差の鞘を振り上げて、お舟は最後の力を振り絞って太鼓を打ち鳴らし、ついに息を引き取るのだった。

**おたのしみ抽選会**

- ご来場の方に演目の終了後、おたのしみ抽選会を行います。
- 応募できるのは公演当日の会場内のみです。
- 氏名を記入の上、演目が終了するまでの間に、会場内に設置した応募箱に投かんして下さい。
- 応募はお一人につき一枚までとなります。複数枚応募されても、2枚目以降は無効となります。
- 抽選時点で会場内にいらっしゃらない場合、当選は無効となります。

キリトリ線

**応募券**

(フリガナを必ず記入してください)

(姓)	(名)